

2019.3.16

まもなく幸手駅橋上駅舎東西自由通路が完成

平成31年3月16日(土)、幸手駅橋上駅舎東西自由通路がいよいよ完成します。交通の利便性の向上や、観光振興など、市の活性化につながるものと期待できます。完成を目前に控え、幸手駅周辺の変貌を写真で懐かしんでみませんか。

1929年～2019年 ～幸手駅周辺の変貌～



■ 昭和4年(1929年)

昭和4年4月、歓迎門に「祝鐵道開通 幸手町」と記載されています。念願の鉄道開通や、幸手駅の開業を祝う歓喜の様子が伝わってきます。



■ 昭和6年(1931年)

開業後間もない頃の幸手駅、当時の幸手町勢要覧には「交通の頻繁なるにつれ、自動車の数も非常に増加している」と記載されています。



■ 昭和49年(1974年)

昭和49年6月開店の東武ストア、当時の幸手駅の顔とも言えるお店でしたが、平成15年2月に閉店となりました。



■ 昭和60年(1985年)

埼玉県統計年鑑によると、幸手駅の年間乗客数のピークは昭和60年で4,132,763人と記録されています。



■ 平成13年(2001年)

バスのターンテーブルは、東口駅前広場整備工事に伴い、平成18年3月に撤去完了となりました。写真は、平成13年8月に撮影されたものです。



■ 平成20年(2008年)

東口駅前広場が完成し、移動や乗降時に雨に濡れないようにシェルターを連結。待ち合わせなどに利用できる、手すりのあるサークルベンチも設置されました。



■ 平成23年(2011年)

幸手駅のバリアフリー化を進めるため、エレベーターおよび多機能トイレが設置されました。外観は開業当時の面影を残し、82年の月日が流れました。



■ 平成29年(2017年)

仮駅舎への利用切替となり、駅の橋上化とともに、東西地区を結ぶ自由通路や西口駅前広場整備が平成29年8月から行われました。平成31年3月16日、新たな幸手駅の誕生です。

※昭和4年・6年当時の写真は、岸本家(国の登録有形文化財(建造物)に登録された「岸本家住宅主屋」の所有者)からお借りしました。